

## 第 11 次中期経営計画「Expansion for Resilience-30」概要

今後のわが国経済は、長らく続いた停滞からの脱却に向けた動きが見られる一方で、地政学的リスクの常態化、資源・原材料価格の変動に加えて流通量の逼迫、気候変動への対応といった複合的な要因により、不確実性が常態化する局面にあります。加えて、IoT や AI をはじめとするデジタル技術の進展、脱炭素社会への移行に伴う産業構造の変化は、当社グループの事業環境にも継続的な影響を及ぼすものと見込まれます。我々はこのような時代において、変化そのものに適応しうる柔軟性、すなわちレジリエンスの確立が企業価値の源泉となるものと認識しております。

こうした認識のもと、当社グループは、2026 年 4 月より第 11 次中期経営計画「Expansion for Resilience-30 (ER-30)」を開始し、前期に構築した基盤を活用した事業の拡張と進化を推進し、「環境の変化に対応し、社会の期待に応える強靱な企業」を目標として、変化を前提とした経営への転換を図ってまいります。

ありたい姿：「環境の変化に対応し、社会の期待に応える強靱な企業」

経営方針：顧客満足度の向上

経営目標：営業利益率 5 % 以上

### 主な重点施策

#### I. 事業の強化

- 1) PDM を含む新基幹システムを中核とした業務の一貫性強化（営業・設計・調達・製造の統合）
- 2) パターンオーダー化の深化による全体最適の実現

#### II. 社会課題への貢献

- 1) 液化水素用バルブ等の脱炭素関連製品の拡販
- 2) IoT 活用による運用データ取得と予防保全・最適運転の実現

#### III. 組織体制の強化

- 1) グループ経営体制への移行と経営企画機能の集約
- 2) 意思決定の高度化と資本効率の向上
- 4) 柔軟な働き方の実現や本社ビルリニューアルによるエンゲージメントの向上

以上